

【第9回 佐賀県豚熱対策本部会議】 9月1日（金）18:00

農林水産部長／2例目は、約1万頭のうち、2,617頭の処分が終了。この数は、子豚中心。これから親豚の処分になるため、作業は難航するだろう。

埋却溝は、1本目は75m計画のうち60m、2本目は70m計画の4mと、堀削は順調に進んでいる。

現地防疫作業員の動員数は、現行239名。県、自衛隊、建設業協会、市町、JAと他県獣医師が6名。1例目からの延べ動員者数は1,379名。

処分の進度を上げるため、9月1日20時から殺処分に係る県の動員数を増強する。

消毒ポイントは、新たに追加した多久、武雄、太良の3か所が稼働を開始。

まん延防止を防ぐために、県内養豚農家に対して防疫対策の強化を呼びかけ、消石灰を配布している。1日までに24戸へ配布済み、2日は3戸に配布予定。全養豚農家に防疫対策の徹底を再度連絡した。

家畜伝染予防法に基づく知事の消毒命令を本日発出予定。

1例目は、本日中に埋却が完了する予定。フレコンバッグは128袋。

防疫対策に係る応援は、

- ・自衛隊が殺処分等の防疫措置。
- ・建設業協会と防災対策協議会が消毒ポイント、埋却作業。
- ・JAグループ佐賀が動員者の輸送、フォークリフトのオペレーターの派遣、資材の運搬。
- ・県警は、消毒ポイントの警戒。
- ・バス・タクシー協会は動員者の送迎、他県からの獣医師の送迎。
- ・佐賀県トラック協会は、物資の輸送。
- ・飲食料はほっともっと、JAグループ佐賀、セブンイレブンに協力してもらっている。

他県からの獣医師は、現在6名が従事。また、45名が要請に応じていただいた。

知事／順行路線になりつつある。2,617頭と聞くと、1/4の処分が終わったように感じるが、ほとんどが小さい豚。今後、300キロの種豚や母豚の処分に難航が予想され、長期戦になるだろう。

落合副知事／竹木場公民館に現地対策本部を移した。

西部方面混成団 有村司令と2例目の豚舎を視察。自衛隊に担当していただいたの

は、約 300 キロの母豚がいる豚舎。屈強な自衛隊員でも難渋されていた。1 時間当たり 5～6 頭が精いっぱいとのこと。県職員の担当は、比較的小さな豚のいる豚舎。

埋設用地の掘削作業は、唐津地区建設業協会のご協力の下、順調に進んでいる。

鎮西体育館のサポートセンターでは、19 時半に到着する人員の準備中だった。物資は、十分補充されていた。水、食料の在庫管理の徹底をお願いした。

竹木場公民館の近隣に養豚場があり、急遽、公民館周辺に石灰を散布した。

唐津市長／自衛隊のお力を頼もしく、ありがたく思っている。

本日の議会初日に、市議会で現状の報告をした。竹木場公民館に現地対策を移設し通信状態が良くなった。

現時点で、市に苦情や不満は入っていない。皆様の尽力の賜物だと感謝している。

知事／今後、他県の獣医師の応援で、作業はスムーズになりそうですか。

落合副知事／ボトルネックは、獣医師、現場のスペース問題、埋設処分の問題。全体を調整しながら進める必要がある。

知事／処分のために豚をほかの場所へ追い込むのが、至難の業のよう。

落合副知事／豚舎から埋設する場所まで距離がある。運搬方法が今後の課題になる。

知事／必要なものがあれば、すぐに指示してほしい。こちらには調整要員も残っている。

自衛隊／陸上自衛隊西部方面混成団です。昨夜から現在まで、約 200 名体制でローテーションを組み、作業を行っている。

現在は、分娩舎で活動を実施。逐次ほかの豚舎に進出し、作業を実施する。安全に留意して実施するとともに、新たな要望事項が出た場合、調整をお願いする。

健康福祉部長／本日は、気温が上昇しなかったため、体調を崩す人はいなかった。フォークリフト作業中に薬指を挟み、軽傷を負った人が 1 人。湿布等を貼る応急措置をとり、病院に行くように助言をした。

現場の保健師は、防護服の脱着時の声かけ、手指消毒等の声かけ、トイレ清掃活動に従事。

心のケアについて。保健福祉事務所が、家畜保健衛生所とともに畜産農家に訪問し、何かあれば相談をと、まずは接触するようにしている。1 例目は終わった。

従事している建設業や J A の人に、心の電話相談の連絡先や、何かあれば精神保健福祉センターへ連絡をとというチラシをお帰りの際に配付した。職員には、県の職員ポ

ータルの電子掲示板に同様のチラシを掲載し案内している。

知事／いい着眼点だと思う。特に、農家の人はショックを受けている。お互いさまだと励ましてほしい。

県土整備部長／消毒ポイントは、畜産関係5か所、一般車両4か所。順調に作業が行われている。

各消毒ポイントは、管内の建設業協会が配置についている。唐津の建設業協会は、殺処分の現場に入っているので、防災対策協議会が配置。消毒ポイントがないエリアの佐賀、神埼、鳥栖から殺処分の現場の支援をしてもらうよう準備中。

知事／それぞれが、役割を果たしていただき感謝する。

ポイントは2つ。1つは、事故なくやり遂げること。今後、重い豚の作業が増えたり、作業に慣れてくるほどリスクも高まったりする。2つめは、まん延防止。県内にとどまらず九州でまん延すると大きな打撃を受ける。

消石灰を分厚くまけば小動物は入ってこないと聞いた。近隣の予防措置を重点的に講じたい。

各応援機関の皆様に感謝申し上げます。佐賀県は、全力で取り組みます。